

アメリカ人から見た日本語習得 ジャン・ブレゲンズ

文法

言語にはルールがあるようで例外が多い。(All grammar is leak.)

教え方

チャンク(Chunk)で覚える：おはようございます

アメリカ人は、「りゃ、りゅ、りょ」が言いづらい。

汚い日本語は避ける

あっそっか…きたない日本語で使わないほうがよい

化石化(Fossilization)：化石のように悪い癖が残る。ここではいつも同じ間違いを犯す。これを集中的になおす。

プライドがあると間違いを恐れて学習能力をそぐことがある：avoidance

プライドを壊さないように心得る

いつ直すが考える。話の盛り上がっているときは、後で直す。

ad-hoc 臨機応変が大切

Pressure & Culture shock

いくつかの外国人は日本語が覚えないと、帰国の途につくという恐怖がある

つまようじがスーパーのどこで売られているかでもストレスになる

間違いやすい表現

決して食べなかった → 一度も食べなかった

うすめ、こいめ

しろいになった

おげんきですか？ → ~~ごげんきですか？~~

手術をしたことがありますか？(自分が医者で手術をしたことと間違え)

アメリカ人にとって、コモンとコウモンは同じに聞こえる。

私は顧問(コモン)をしています。

私は肛門(コウモン)をしています。

真っ黒 Black black、真っ青 Blue blue

「えーと、あの一」 → 「Anmu, let me see」

Next Monday はあいまいな表現

This coming Monday ただ唯一の月曜日をさす

slim chance = fat chance

日本語教師のやるべきこと

ほめること

年齢を認める：教える人は相手の年齢を考慮する

他の生徒との競争は意味がない。その人の過去と比較する。